



3学期のスタートにあたって

始業式では、校長より一冊の絵本を紹介しました。『はじめての「よのなかルールブック」おやくそくえほん』という絵本です。

絵本の中には、「不機嫌でないこと」や「自分を好きでいること」など、日々の生活の中で大切にしたい言葉が紹介されています。生徒たちは自分自身や周りの人との関わり方について考えるよい機会となりました。

この絵本が伝えているのは、「自分だけでなく、周りの人も大切にすること」や、「思っていることは、言葉にしなければ相手には伝わらない」という、とても身近で大切なことです。学校生活は、こうしたことを日々の中で学び、実践していく場でもあります。

友だちの話を最後まで聞くこと、意見が違ってもお互いを認め合うこと、困っている人にそっと声をかけること、そして自分の気持ちを言葉で伝えること。こうした毎日の積み重ねが、生徒一人一人の成長につながっていきます。

3学期も「昨日の自分より、ほんの少し成長した自分」を目標に、前向きに学校生活を送ってほしいと願っています。

教職員一同、これからも生徒たちの成長を温かく見守り、支えてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



生徒会リーダー研修



3学期始業式



登本先生参観授業

3学期授業参観・PTA総会のご案内

令和8年2月6日（金）に次の日程で、3学期授業参観・PTA総会等を開催します。

保護者の皆様には、お忙しい中ですが、ぜひご出席いただきますようお願い申し上げます。

- 受付、チャレンジ販売会（体育館） 13：10～
- 授業参観（各教室等） 13：55～
- PTA総会及び運動・文化活動育成会総会 14：55～
- 各学年・学級懇談会 15：55～

登本 洋子 先生による授業参観

1月14日（水）5時間目に、東京学芸大学准教授の登本洋子先生をはじめ、苓北町教育委員会の皆様に本校の授業の様子を参観していただきました。また、参観後には、授業づくりや校内研究の内容等についてご助言をいただきました。

令和8年度の2学期には、苓北町教育委員会指定の研究発表を開催する予定です。今回いただいたご助言を参考にしながら、授業づくりについて研究を進めていきたいと考えています。

受検に向けた面接練習を通して感じたこと

3学期に入り、私立高校や通信制高校の受検が始まり、いよいよ来週には県立高校の前期選抜入試が行われます。前期選抜入試では面接が実施されるため、受検生はその練習に真剣に取り組んでいます。

面接練習では、入室の仕方や動作、態度、受け答え、回答の内容など、さまざまな観点からアドバイスをを行っています。何度も練習を重ねる中で、自分のよさに気付いたり、高校生活や将来のビジョンについて考えがまとまってきたりします。

そして、ある時を境に、受検生の雰囲気が変わってきます。緊張感の中にも笑顔が見られるようになり、追発問にも堂々と答えられるようになります。そのような状態に入った受検生は、想定外の質問に対しても、説得力のある回答ができるようになります。

これまでは小学校や中学校の中で行われてきたテストでしたが、今後は高校入試という大きな試練に挑むことになります。人生における初めての大きな挑戦とも言えるでしょう。自分を信じて、最後まで頑張りたいと思います。そのためにも、感染症に十分気を付け、受検当日を健康な状態で迎えることが何より大切です。「人事を尽くして天命を待つ」受検生たちに、心からエールを送ります。

熊日新聞の「読者のひろば」若者コーナーに掲載された生徒作文を紹介します。

上達する喜び、太鼓練習に熱 岡野朱莉、中学1年生 熊本日日新聞 2026年1月5日

私は中学生になってから「天領太鼓」を始めました。天領太鼓は、2022年度から苓北中学校で復活させたものです。10月の富岡城お城まつりに向けて、6月ごろから天領祝い太鼓をたたくための練習を始めました。

私の役割は太鼓ではなく「竹」です。竹はリズムをとる役割があります。最初は基本打ちの練習からでした。リズムを取れるように練習を積み重ねました。基本打ちが終わると、曲の練習をしました。ほとんどが基本打ちのリズムと一緒にでしたが、1人で打つソロの部分があったので、特に練習を頑張りました。

一通りたたけるようになったので、次は強弱をつけることを意識してたたきました。練習を重ねていくうちに、少しずつ上手になっていくことが実感できて、うれしかったです。いよいよ本番になりました。本番直前の練習で一度ミスをしてしまったので、とても緊張しました。最初にたたいた時、いつもの響きがなく、音が小さく感じました。だからいつもより強くたたきました。いつもより上手にたたくことができ、練習の成果を発揮して楽しく演奏できたので良かったです。

これからも、多くのイベントへの出演に向けて、練習を頑張っていきたいです。



農業営む両親、大変さ知った 田中花奈、中学1年生 熊本日日新聞 2025年12月23日

私の両親は農家として働いています。家では一年を通して野菜や果物、主にレタスやオクラ、お米、みかんなどを栽培しています。この前、休みの日に母が体調を崩したので、手伝いをしました。冬になるとレタスを作るので、レタスの苗植えを手伝いました。機械に乗って、苗を植える作業でしたが、思っていた以上に大変でしつかったです。

今までは見てただけでどんな仕事かわかりませんでした。最初は集中して作業できていましたが、午後からは風も吹いていて、どんどん集中力が切れていきました。実際にやってみて、両親がいつもこのようなことをしていたと知って、尊敬しました。また、農業はその時の天気などによっても、育てていく計画が変わり、さらに大変になります。それほど農業は時間と人の力が必要で、少しでも誰かができなくなれば計画通りにいかず、限られた時間の中で仕事をしなければなりません。改めて農業の大変さを知りました。そのような中で、両親は私たちの前では明るく元気にふるまって、本当にすごいと思いました。特に母は家事と仕事の両立をされていて、すごいです。

これからは、できるだけ時間があるときに家事の手伝いをしたり、休みの日は仕事の手伝いをしたりしようと思いました。また、今までよりも多くの感謝を家族に伝えていきたいです。



他国のマナー 互いに学ぼう 岳本莉音、中学1年生 熊本日日新聞 2025年12月20日

最近、日本に外国人の方が来ることが多くなったと感じます。ニュースだけでなく、私の住む町でも外国人の方を見かけることがあります。外国人の方が日本に興味を持ち、文化を学ぼうとしているのは良いことだと思います。また、人手不足に悩む福祉や農業などの産業を支えてくださるのもうれしいことです。日本の文化を学び、産業を支えてくださる外国人の方を誇らしく思います。

しかし、外国人の方が多くなることで、マナーやルールの違いから問題が起きることがあると聞いたことがあります。例えば、公共の場所で大きな声を出したり、ごみをポイ捨てしたりする人もいます。美しい自然や町の景色が壊れてしまうのは残念なことです。しかし、それは私たち日本人にも当てはまることだと思います。日本の文化や環境を守るためには、外国人の方にマナーやルールを伝えると同時に、私たちも外国の文化やマナー、ルールを学ぶことが大切だと思います。そうすることで相互理解が生まれ、日本人も外国人も安心して過ごせる国になっていくと思います。

そのために、私は笑顔であいさつをしたり、優しく話しかけたりできるようになりたいと思います。日本の文化や環境を守りながら、外国人の方も親しめる町、そして国にしていけたら良いと思います。

